

1 演習名 産業発展論(川端)演習

2 テーマ

ケース・スタディで見る企業と産業のダイナミズム。産業発展論(Industrial Development)は、時間の経過に即した産業の変化を取り扱う科目です。

3 テキスト

まず産業研究の方法と日本経済の現状について、難しくないテキストで学びます。新刊を使うこともあるので未定ですが(この原稿は9月に書いています)、決まり次第ホームページで発表します。

4 趣旨

*産業経済のレポート・論文を書けるようになる: 様々な産業を取り扱います。エリアは先進国でも途上国でも構いません。昨年度の演習論文テーマは、花王の販社戦略、軽自動車産業史、ヤマハの多角化、中国への環境技術移転、関東自動車工業の競争戦略、基幹的パートタイマーの問題、個と公とは何か、でした。

*フィールド調査に出かけよう: 日産、JFE スチール、東北イノベーションキャピタルなど様々な企業を訪問しています。

*OB・OGと交流しよう: 当ゼミは「工業経済学」ゼミを改称したものです。前任教授時代から続くOB・OG会があり、現代産業研究会などを行っています。2005年度はベンチャー創業セミナーを開催しました(ホームページ参照)。

5 募集人員 4月進級者 5-6名、編入生 1-2名、10月進級者 1-2名。

6 参加条件

無断欠席をしないこと。学外での取材に参加すること。オフィスソフトをそこそこ使えて、パソコンのメールアドレスを持つこと。ゼミに入ってからでもまにあいます。2006年度基本専門科目「企業論」も受講すること。経済数学は必要ありませんが、文章を読みこなす力は必要です。

7 選考方法(4月進級予定者) 希望者多数の場合は選抜を行います。

8 運営方針

* ゼミの進め方は二つのパターンがあります。 テキストの輪読。レポーターが報告し、全員で議論する。 各自がテーマを持って調査研究を進め、報告・討論する。

* 調査記録・研究報告や演習論文をゼミ誌『研究調査シリーズ』に発行します。バックナンバーの目次はホームページを参照。学生の研究計画に書籍・機材等を支援します

9 担当教員の主要な研究業績

著書：『東アジア鉄鋼業のダイナミズム』（ミネルヴァ書房、近刊）（大野健一との共編著）『ベトナムの工業化戦略』（日本評論社、2003年）など。調査報告：ベトナム鉄鋼業、日系メーカーのタイ進出、山西省の産業と環境、韓国自動車産業など。翻訳：W. アダムス&J. ブロック『現代アメリカ産業論 第10版』（共訳：創風社、2002年）など。研究の応用：国際協力機構（JICA）のベトナム市場経済化支援プロジェクトに参加（2000-3年度）。

10 指導教員が薦める本

2月に打ち合わせを行い、春休みのレポート課題を出します。

最近使ったゼミテキストから紹介しておきます。宮本光晴『企業システムの経済学』新世社、南亮進『日本の経済発展（第3版）』東洋経済新報社、植草益ほか編『素材産業の新展開』NTT出版、森谷正規編『機械産業の新展開』NTT出版。金子勝『経済大転換』ちくま新書、末廣昭『進化する多国籍企業』岩波書店。

11 「ゼミ見学」の可否

歓迎します。14時40分までに第15演習室に来てください。質問はメールでも受け付けます。

12 10月進級者に対する特記事項 なし

13 その他

ホームページを見て、自分の関心とゼミの予想される内容をよく照らし合わせてください。メールによる問い合わせも受け付けます。

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/staff/index.html> （一覧から選択）

kawabata@econ.tohoku.ac.jp